がん何でもQ&A

再発予防薬 続けるべきか

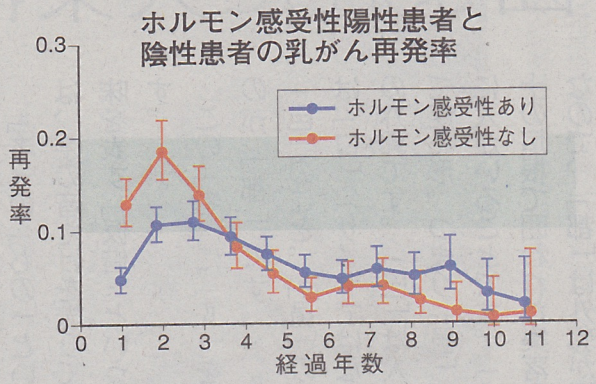
飲まなくても効果持続

質問　60代の主婦です。6年前に直径1・2、1・0、0・7㌢の乳がんができ、右乳房の全摘手術を受けました。リンパ節に転移はなく、抗がん剤も4コース済ませ、その後は再発予防のためにアリミデックスを5年間服用しました。最近、主治医が服用の必要はないと判断し、今はやめています。しかし、同様の全摘患者で5年以上服用している人もいます。副作用がないので服用する方がいいのではないかと思いますが、どうなのでしょうか。

答え　三つのがんが発生していたのではなく、乳管の中を広がるがんだったのではないかと思います。小さいけれど乳管を食い破り、三つの「しこり」を作っていた可能性があります。乳房切除後に抗がん剤治療を4コース受けられたということからも、「しこり」を作る浸潤がんだったことが推測されます。適切な手術選択と術後治療を受けられたために、再発がなく現在に至っているのでしょう。

徳島大学病院食道・乳腺甲状腺外科科長
丹黒（たんごく）　章

乳がん細胞の約6割は、女性ホルモンに対する受容体があり、この受容体に女性ホルモンが合体して、がんの増殖を促進します。ホルモン感受性のある乳がんは、感受性がないがんが早期に再発するのに対して成長が比較的穏やかですが、手術して5年以上たっても再発する危険性は、感受性がないものより高い状態で続きます《グラフ参照》。



閉経前の場合は、受容体に結合して増殖を抑えるタモキシフェンという薬を5年間服用するか、それに加えて卵巣で女性ホルモンが作られるのを抑える「LH－RHアゴニスト」という薬を毎月皮下注射することで、手術後の乳がん再発を抑えます。

女性ホルモンは、男性ホルモンにアロマターゼという酵素が作用して作られるのですが、閉経後には卵巣で女性ホルモンが作れなくなり、がん細胞や脂肪組織などでアロマターゼによって女性ホルモンが作られ、これが乳がんを育てます。

そこで、閉経後の乳がん治療にはアロマターゼ阻害剤が用いられ、手術後の再発予防には5年間毎日服用することが推奨されています。このアロマターゼ阻害剤には、質問者の飲まれていたアリミデックスや、アロマシン、フェマーラという3種類があります。

閉経後の乳がん患者では、アリミデックスを5年間服用する方がタモキシフェンを5年間服用するよりも再発予防効果があることが証明されています。また5年間服用した後も、その効果が持続することも分かっています。

こうした点から、ご質問のアリミデックスを5年後以降も継続すべきかどうかについては、服用しなくてよいと思います。

ちなみに、以前の臨床試験で、タモキシフェンを5年間服用した後、さらに5年間服用することにより、それ以降の乳がん再発を抑えられることが証明されています。また、2007年に発表された5千人を対象とした大規模な臨床試験で、タモキシフェンを5年間服用した後で、さらにフェマーラを5年間服用すると、5年以降の再発リスクを減少させることが証明され、リンパ節転移が多いリスクの高い人に有効でした。ホルモン治療の5年以降の継続に関しては、日本でも臨床試験が行われているところで、まだ結論は出ていません。

副作用については、質問者は、はっきりとした副作用を自覚されていませんが、これらの薬を飲み続けると、タモキシフェンでは子宮体がん発生、アロマターゼ阻害剤には骨粗鬆症（しょう）や脂質代謝異常といった自覚症状の少ない副作用があります。

生活習慣で気をつけるのは、適度に日光に当たり、適度な運動をすること。そして、くよくよせずに楽しく生活することです。打ち込める趣味があると毎日が楽しくなります。また、患者会など他の患者、後輩のお世話などしていただくと人生に余裕が生まれると思います。

質問募集　がんに関する悩みに「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770－8572徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センター〈電088（633）9438〉でも平日午前8時半～午後5時に受け付けています。

徳島がん対策センター　http://www.toku-gantaisaku.jp/

ぺんるーむ　☆☆ 息子の受験と大鳴門橋 ☆☆

出張
ら大鳴
つくよ
る。ふ
って徳
その
を待っ
急きょ
新幹線
終の新
シーは
果の分
で気分
運
こんな
かった
だった
けて、
その
日予定
温かな
旅をす
な回
た。
今
め、
の厳
活だ
て見
いる
道か
無事
る。